



大阪は水から生まれた都市で、「水都大阪」と呼ばれています。

モザイクのようにいろんな時代の水辺の魅力を見つけることができます。

感じてもらうきっかけになることを願って、水都大阪かるたを制作しました。

そして水辺へ遊びに行ってみてください！



あ

秋限定
あき げん てい生駒山から
い こま やまご来光
らい こう

ビルが立ち並ぶ現在でも、毎年10月の2週間ほどだけ、土佐堀川の東に望む生駒山から昇る朝日を楽しむことができます。ご来光を眺める早朝の棧橋カフェ「ご来光カフェ」が毎年市民の手で開催されています。



あ

い

一寸法師
いっ すん ぼう し淀川大堰こえて
よど がわ おお ぜき京の都へ
きょう みやこ

昔むかし、一寸法師は大阪から京都まで旧淀川をお椀で上ったそう。2025年には淀川大堰開門が完成し、新淀川からも船が通れるように！一寸法師も大喜び。



い

う

奪^{うば}い合^あう

うん^だちは大^じ事^しな

畑^{はたけ}の肥^ひ料^{りょう}

江戸時代、約4000艘の屎尿船^{しにょうせん}が都心と郊外を巡り、行きはうんちやおしっこを運び、帰りはそれを肥料にして育てた野菜を持って帰ってきました。完全にエコな循環都市ですね！

う



え

江戸^{えど}堀^{ぼり}・土佐^{とさ}堀^{ぼり}・

京町^{きょうまち}堀^{ぼり} 堀^ほって

栄^{さか}えた大^{おお}阪^{さか}のま^まち

江戸時代の大阪のまちには、町人が掘った堀川が縦にも横にもたくさん流れていました。戦後に多くが埋め立てられました、今でも地名に「堀」が残る場所がたくさんあります。

え



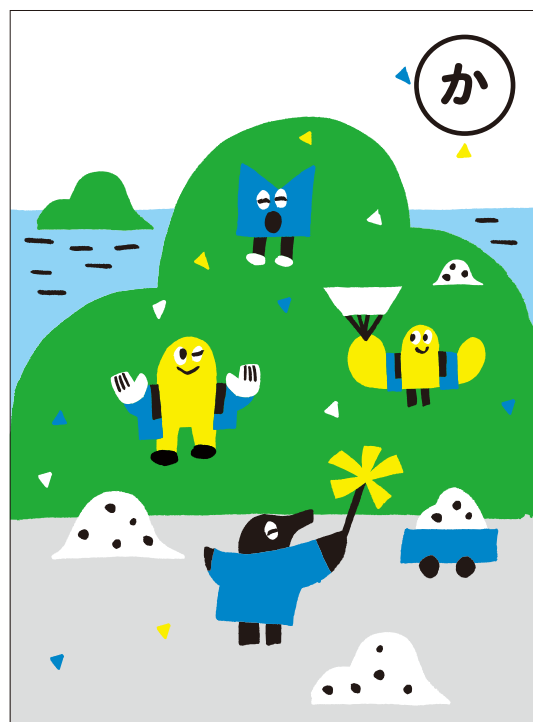
お
大川に
天を満たして
天の川伝説

2010年、水都大阪の新しい風物詩にと始まった「OSAKA天の川伝説」。水に触れると光るボールを数万個も大川に流し、七夕が幻想的な一夜に。終わった後は、光のボール一つ一つをみんなで網で拾います。



か
川ざらえ
さらえた土で
天保山

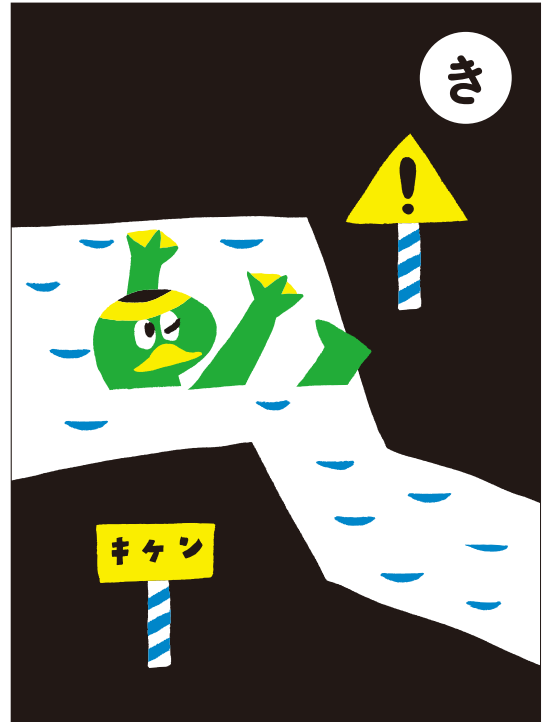
水害対策のため、上流から流れてくる土砂を川底から取り除く川ざらえ。江戸時代、なんでも楽しむ大阪の町民は、お揃いのハッピーで参加。さらえた土で、新しいレジャーの地「天保山」を造りました。



き

気をつけて
カッパが知らせる
川の危険

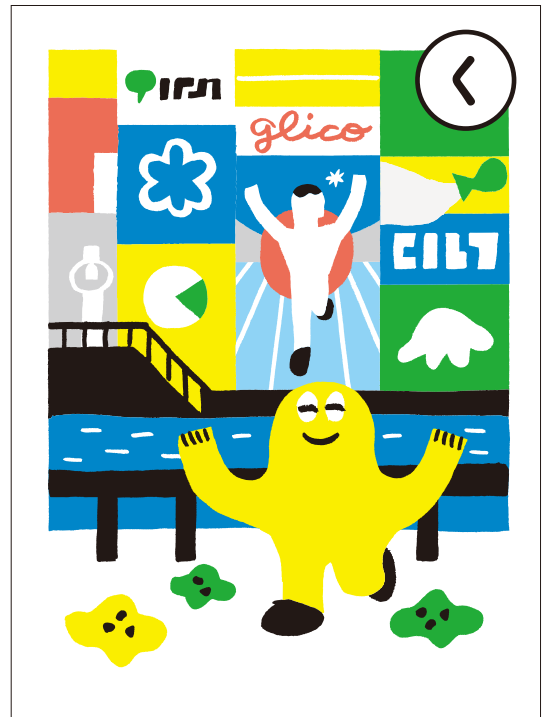
昔から、川筋が曲がる場所は流れが速く、水難事故が多い場所でした。子どもたちに危険を伝えるため「カッパが出るよ!」と言ったことが、カッパ伝説につながったのかもしれません。



く

グリコ前
手を上げみんな
はいチーズ

水都大阪のフォトスポットといえば、道頓堀川のグリコの看板前。初めて設置されたのは1935年で、現在よりもっと背が高いネオン広告塔でした。時代に合わせて変化し、現在は6代目。



け

剣^{けん}先^{さき}の
噴^{ふん}水^{すい}と虹^{にじ}のアーチ
中^{なか}之^の島^{しま}

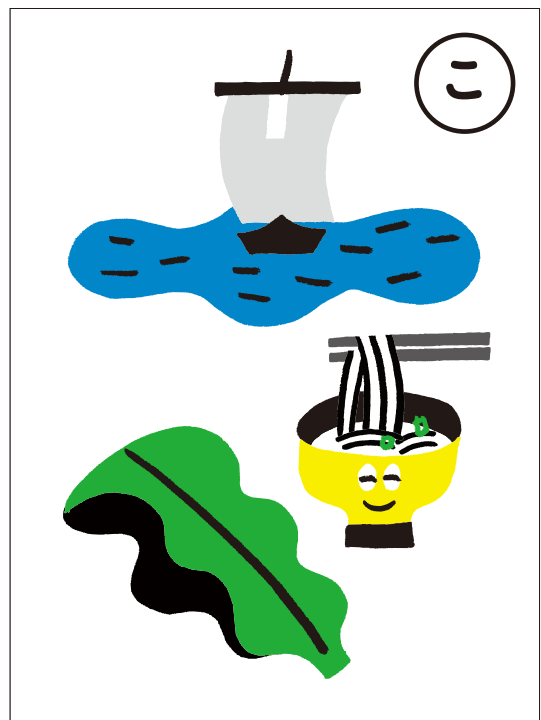
2009年、水都大阪のシンボルイベント「水都大阪2009」に合わせて整備された噴水。川の水を浄化して15分ごとに水が飛び出します。噴水に虹が重なるスペシャルタイムをお見逃しなく。



こ

昆^{こん}布^ぶ出^だ汁^し
北^{きた}前^{まえ}船^{ぶね}で
や^やっ^って^てき^きた

江戸時代、北前船に乗って瀬戸内海を通り、大阪に卸されていた北海道の昆布。北前船の航路が開拓されたおかげで、昆布が命の出汁文化が大阪に生まれました。



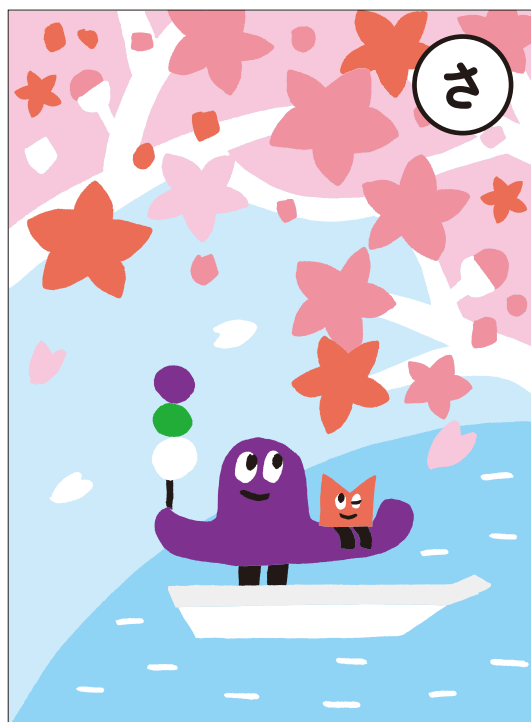
さ

桜さくらのトンネル

お船ふねでくぐる

水すい上じょう花見はなみ

大川沿いには、平成桜の通り抜けプロジェクトの市民の寄付で植えられた約3000本の桜が並んでいます。桜が満開の時期には、川はお花見船でいっぱい。



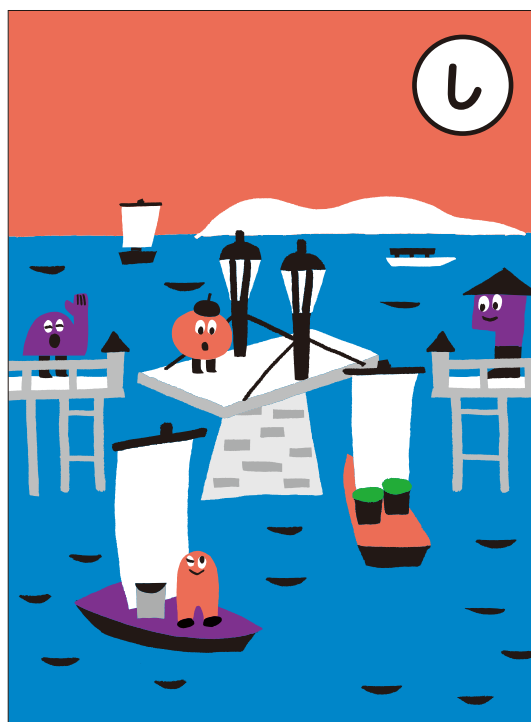
し

磁石じしゃく橋ばし

くるくるまわって

船ふねを通とおす

江戸時代、大阪湾とまちなかをつなぐ重要な航路として掘られた安治川。明治時代に架けられた安治川橋は、背の高い海船が通れるようにぐるぐる回転したため、磁石橋と呼ばれました。



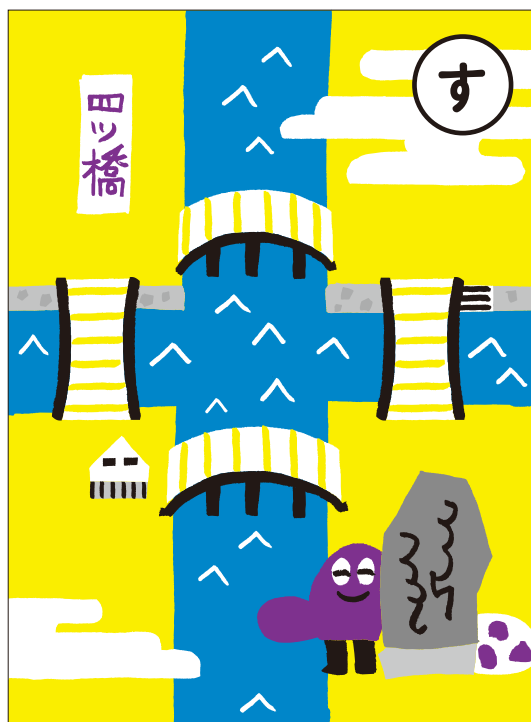
す

すずしさに

四^よつ橋^{ばし}をよつ

わたりけり

江戸時代、長堀川（現：長堀通）と西横堀川（現：阪神高速1号）が交差する川の交差点にあった四ツ橋は、奇観スポットとして知られていました。現在の四ツ橋跡に、小西来山が読んだこの句碑があります。



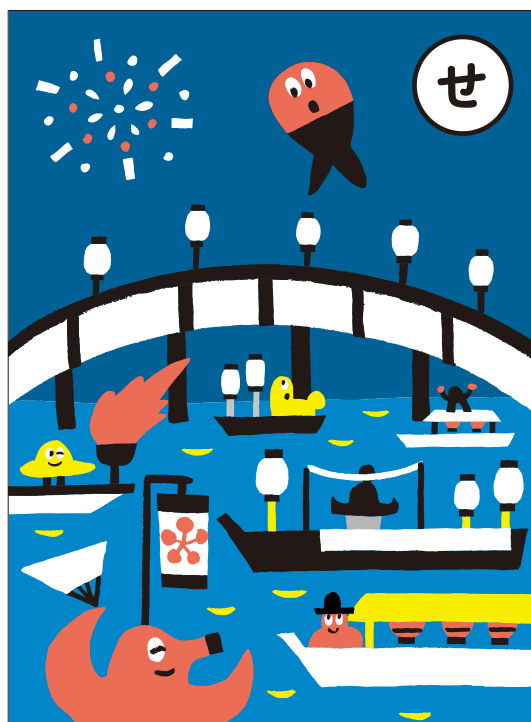
せ

千年^{せんねん}続く

神^{かみ}さまクルーズ

天神祭^{てんじんまつり}

千年前から続く天神祭は、日本三大祭の一つで水都大阪の夏の風物詩。約100隻の船が神様と一緒に巡航する船渡御は圧巻。行き交う船同士、水辺の人と船の間で手拍子（大阪締め）をして盛り上がります。



そ

そびえたつ大阪城 市民の寄付で 3代目

安土桃山時代、豊臣秀吉がつくった大阪城は、徳川との戦いで焼失。徳川幕府によって再建された2代目天守閣は、1665年に落雷で消失。3代目は、昭和初期に市民の寄付で再建されました。

そ



た

食べちゃうぞ ゴミをパクパク 清掃船

水都大阪では、毎朝清掃船が活躍しています。人が網で器用にゴミを集めたり、ネットコンベアで効率よく水草やゴミを回収したり。清掃船を見かけたら、感謝の気持ちで手を振ってみよう！

た



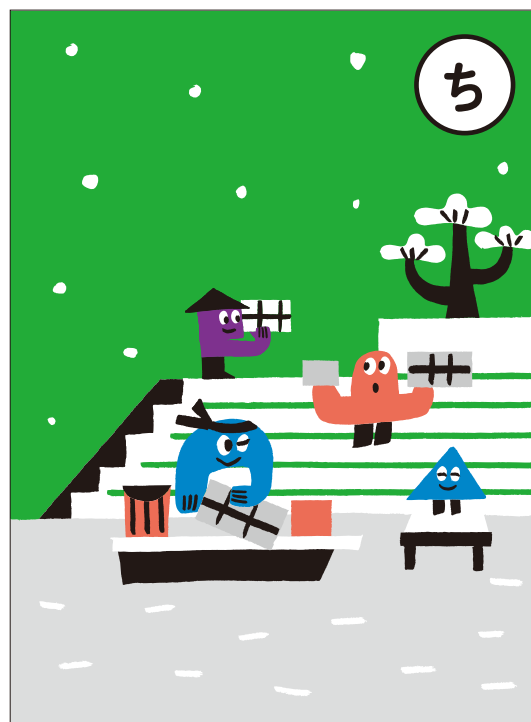


ちよう
い
へん
どう
潮位変動

がん
ぎ
岸岐があれば

なんのその

江戸時代、「浜」と呼ばれた川岸には階段状の岸岐（がんぎ雁木）があり、潮位によらず乗り降りできる港として活躍しました。現在はほとんど残っていませんが、2008年、八軒家浜に再生されました。



っ
なみ
津波から

おお
さか
大阪まもる

さん
だい
すい
もん
三大水門

昭和45年に完成した安治川水門・尻無川水門・木津川水門は、国内では珍しいアーチ型の巨大な防潮水門。「三大水門」と呼ばれ、大阪湾の高潮からまちを守ってくれています。



て

天満・天神・難波橋

これぞなにわの

三大橋

江戸時代、浪華八百八橋といわれるほど橋が多かった大阪で、特に有名だったのが天満橋・天神橋・難波橋。雄大な大川に3橋並ぶ姿は当時の観光名所で、現在も凝ったデザインやライトアップが人気です。



と

道頓堀川

舟で乗り付け

芝居小屋

堀どめだった東横堀川の流れをよくするために掘られたのが道頓堀川。成安道頓が私財を投じて尽力し、1615年に完成。川沿いに歌舞伎や人形浄瑠璃の芝居小屋もつくられ繁栄しました。



な

難波津は

古代日本の玄関口

遣唐使も出発だ

古代、大阪は難波津と呼ばれました。津とは、船着場や港のことです。周辺には外交の迎賓施設「難波館」などがあり、遣唐使や遣隋使の船も発着するほどの大きな国際交易港でした。



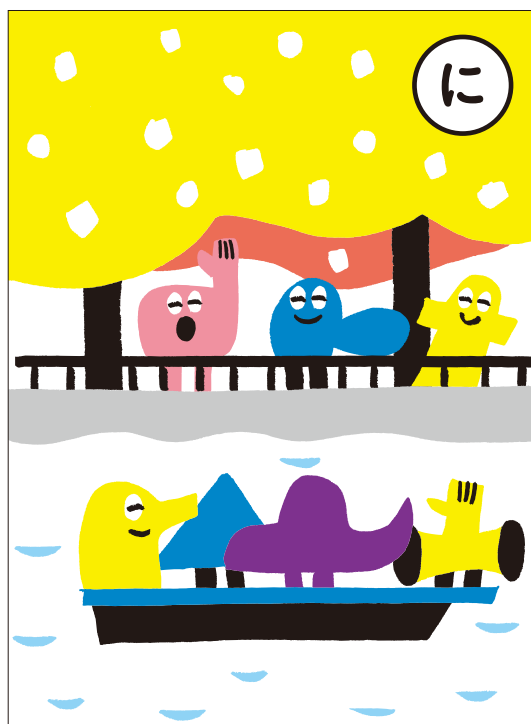
に

ニコニコ笑顔

行き交う船と

手を振りあつて

ぜひ一度、大阪で船に乗ってみてください。船に乗っていると、橋の上や川沿いの人たちが気軽に手を振り返してくれます。思わずお互いっこり。フレンドリーな大阪人ならではのですね。





ぬくぬく

ぷかぷか

水上こたつ
すい じょう づ

毎年冬になると、水都大阪では水上こたつが楽しめます。水上に浮かんだフロートで、お鍋やたこ焼きを楽しんだり、のんびりお昼寝したり。こたつに入ったまま道頓堀を巡る水上ツアーも人気です。



寝てる間に
ね ま

八軒家浜に
はち けん や はま

到着だ
とう ちやく

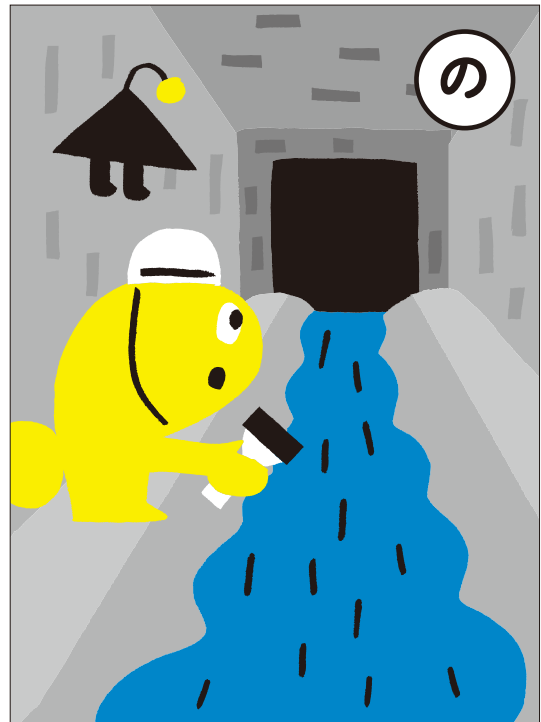
百年程前までは、人の移動は船が主役。各時代に、都市間を結ぶ船や市民の足として活躍した船がありました。江戸時代の三十石船は京都と大阪を結び、寝ている間に大阪に着く夜発の便が人気でした。



の

のぞいてごらん 太閤下水

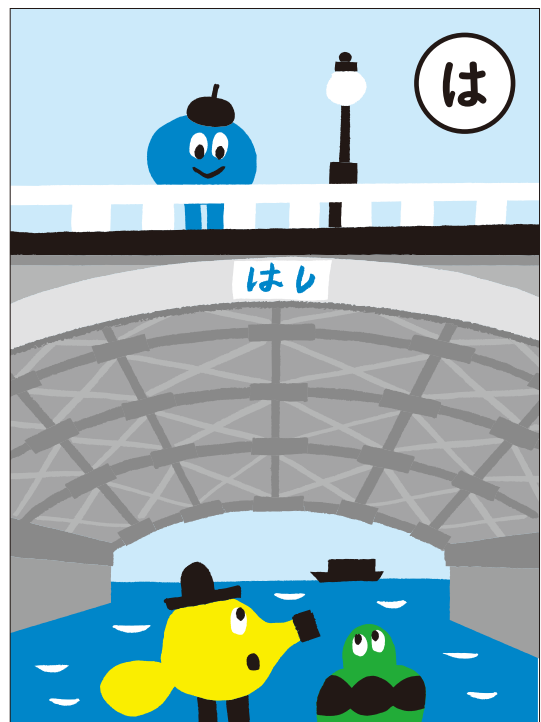
安土桃山時代、太閤秀吉が大阪城下町を建設したときに整備した下水溝。江戸時代もそのアイデアが受け継がれ、大阪の町中に広がりました。今でも日本最古の現役下水道として、約20kmの「太閤下水」が活躍中。



は

橋の裏 思いがけず 魅力的

江戸時代、大阪は浪華八百八橋と呼ばれました。今でも、大正時代から戦前に架けられた素敵なデザインの橋がたくさん残っています。通の楽しみ方は、船に乗って下から橋裏を覗くこと。一度お試しあれ。



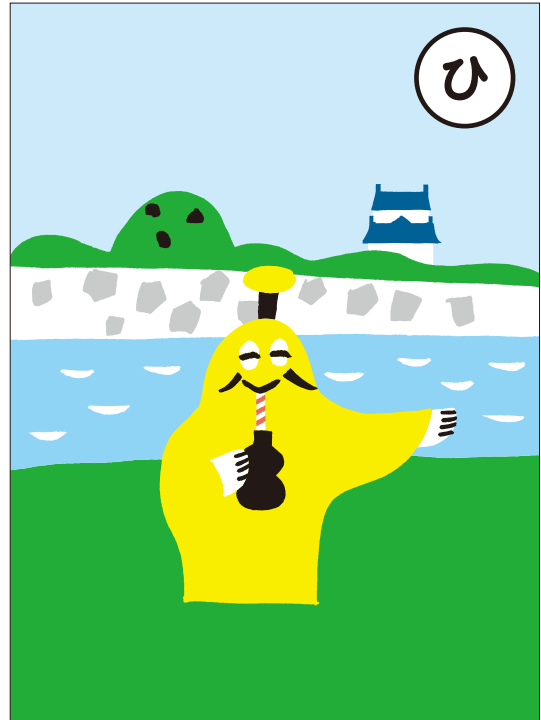


ひがし よこ
ぼり がわ
東横堀川

ひで よし
秀吉つくった

しろ まき
城の守り

1585年、豊臣秀吉が大阪城をつくった時に、防御の最前線である外堀（そうがまえ惣構）として掘ったのが東横堀川。現在は高速道路が川の上に架かっているので、地図では川が見えません。



ふく しま
どう しま
え の こ
しま
福島・堂島・江之子島

こ だい
おお さか
古代の大阪

しま
島だらけ

古代は海の底だった大阪。陸地化する過程でたくさん島ができ、「やそしま八十島」と呼ばれた時代も。その頃は、天皇即位の儀式「八十島祭」も大阪で行われました。今でも地名に多くの「島」が残ります。





へとへとだ

高麗橋に

ゴールイン

江戸時代、江戸（現：東京）と大坂（現：大阪）を結ぶ東海道五十七次の終着点として賑わった高麗橋。大坂の玄関口のランドマークとして3階建ての櫓屋敷が橋詰に建てられました。明治時代には大坂初の鉄橋として名所に。



本町橋

100歳越えの

最年長

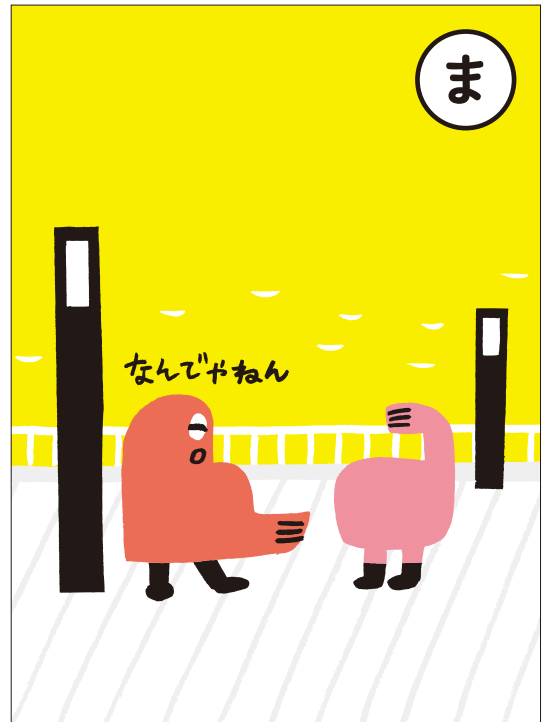
本町橋は、大阪市内の現役橋で1番古い橋。1913年、路面電車が通れるように、鉄と石でしっかりとした造りに架け替えられました。2024年には111歳になります。大阪市指定文化財。



ま

漫才・ダンス・
トランペット
水辺はみんなの
練習場

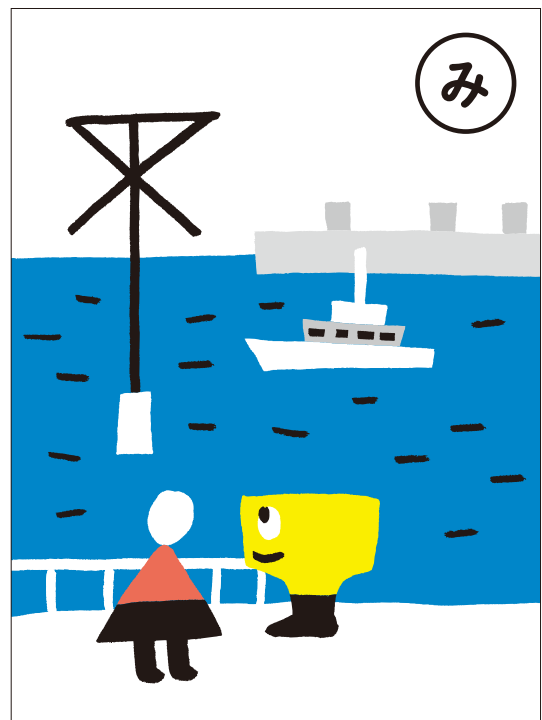
思い思いの活動が溢れる大阪の水辺では、楽器を演奏する人、ダンスをする人、漫才の練習をする人、絵を描く人、いろんな人に出会えるので、楽しく観察してみてくださいね。



み

みおつくし
船の安全願う
道しるべ

古代から、船が安全に航行できるよう、河口の浅瀬に立てられた航行標識を「みおつくし」と呼びました。大阪は船が人やものを運ぶことで発展してきたので、みおつくしが市章になっています。



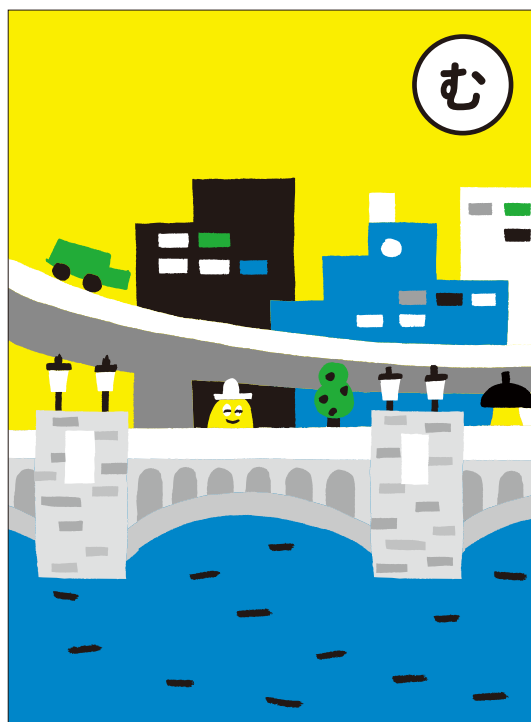


むかし
堰^{せき}

今は
歩道^{ほどう}
の

水晶
橋^{しゅしょうばし}

水晶橋・錦橋・大国橋は、昭和初期、川をきれいに
するための可動堰^{かどうぜき}として作られました。現在は歩行
者専用の橋として、ベンチや花壇がつくれ、憩い
の場所になっています。



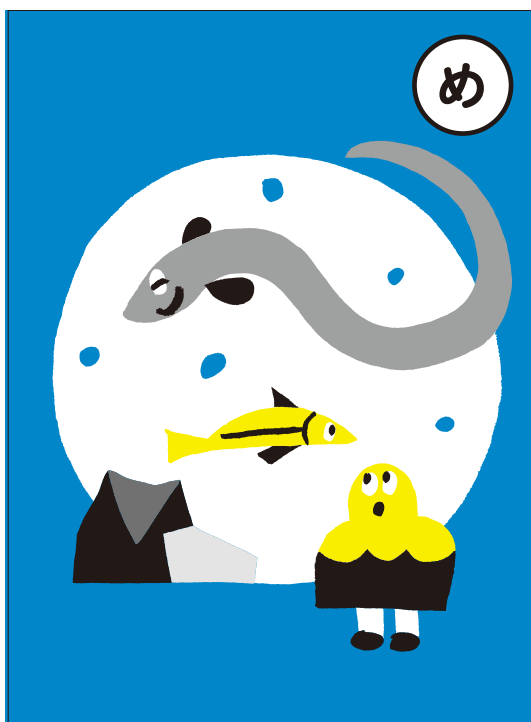
めっちゃきれい
に

なりました

鮎^{あゆ}もう
なぎも

暮^くらす
川^{かわ}

大阪の川は、高度経済成長期に水質が悪化しまし
たが、今ではとても綺麗になり、いろんな生き物が棲
めるようになりました。2021年には東横堀川で鮎、
2022年には道頓堀川でうなぎが発見されています。



も

もうかりまつか

市場に飛び交う

商い魂

堂島米市場、天満青物市場、^{ざいごば}雑喉場魚市場は、江戸時代に賑わった大阪の三大市場で、すべて川沿いにありました。市場には全国から船で集められた食べ物があふれ、商人たちの活気に溢れていました。



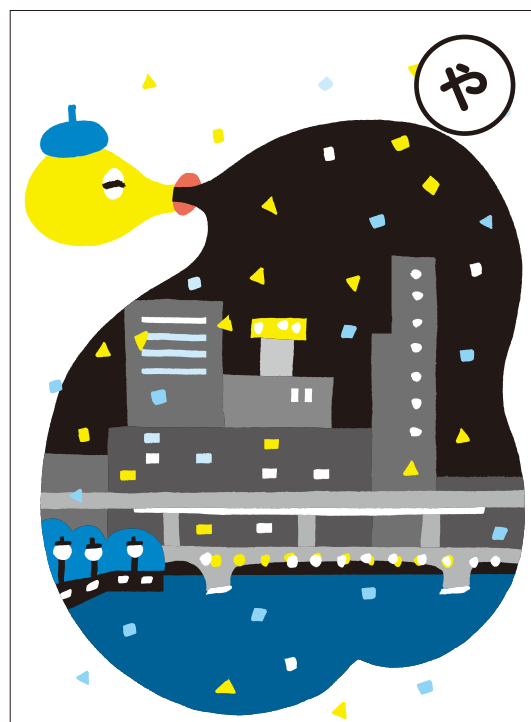
や

夜景キラキラ

川面に映る

高層ビル群

たくさんの高層ビルが立ち並ぶ中之島周辺は、夜になるとビルの明かりが川面に写り、きらきらと輝きます。クルーズしたり川沿いを散歩したりして、水辺の夜景を楽しんでください。



夢に見た
市民が集う
中央公会堂



大正時代、アメリカの寄付文化に感銘を受けた岩本栄之助が建てた中央公会堂。栄之助が夢見た「誰にでも使ってもらえる場所」として、今も愛されています。国の重要文化財。



淀屋が架けた
淀屋橋
心齋架けた心齋橋



江戸時代の大阪の橋は、町人達が費用を出し合って橋を架け、維持管理する「町橋」がほとんどでした。淀屋橋は大阪を代表する豪商・淀屋が、心齋橋は岡田心齋が架けたといわれ、今もその名が橋名に残る町橋です。



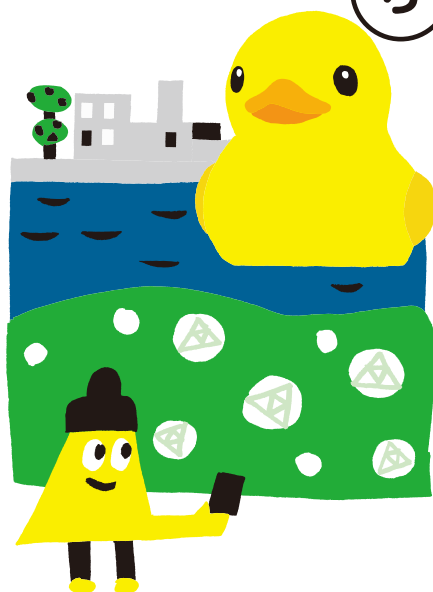
ら

ラバーダック
水の都の
人気者

2009年、水都大阪のシンボルイベント「水都大阪2009」に大阪デビューした、世界を旅するアヒルちゃん。

※図中の黄色いアヒルは、アート作品「ラバー・ダック」展示時のイメージイラストです。(作家:F. ホフマン/作品提供:千島土地株式会社)

ら



り

リバーサイドの
おしゃれカフェ
北浜テラス

川沿いのビルオーナーたちの想いを受けて、2008年に社会実験としてスタートした北浜テラス。日本で初めて実現した現代版の川床です。今ではおしゃれなカフェやレストランが立ち並ぶ人気スポットに。

り



る

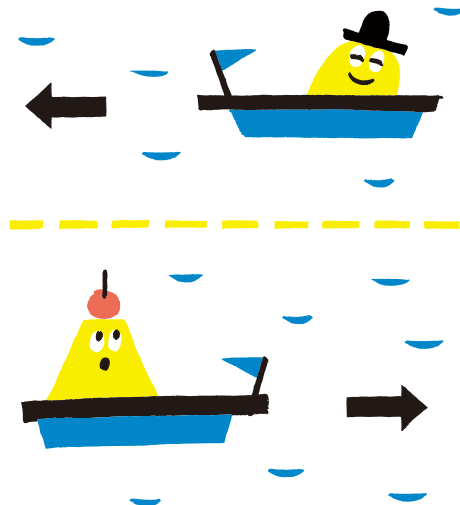
ルール守って
まも

安全運航
あん ぜん こう

船は右側通行だ
ふね みぎ がわ とうこう

道路と同じで川は誰でも自由に通ることができます。動力船を運転する場合は、車と同じように免許が必要。免許試験にも出る航行ルールは、船は右側通行で大型船優先ということ。車と反対ですね。

る



れ

レンガの教会
きょうかい

居留地の
きょりゅうち

面影伝える
おもかげつた

長い鎖国を終えた1868年、安治川上流に大阪港と川口外国人居留地ができました。水深が浅く外国の大型船が入港できず、すぐに廃れてしまいましたが、喫茶店やホテルなど近代文化発祥の地に。

れ



ろ

口の字に流れる

大阪の川

船で1周90分

世界でも珍しく、都心に「ロ」の字の形に川が流れる現在の大阪。北は中之島（堂島川・土佐堀川）、東は東横堀川、南は道頓堀川、西は木津川と、それぞれ川の名前が違います。



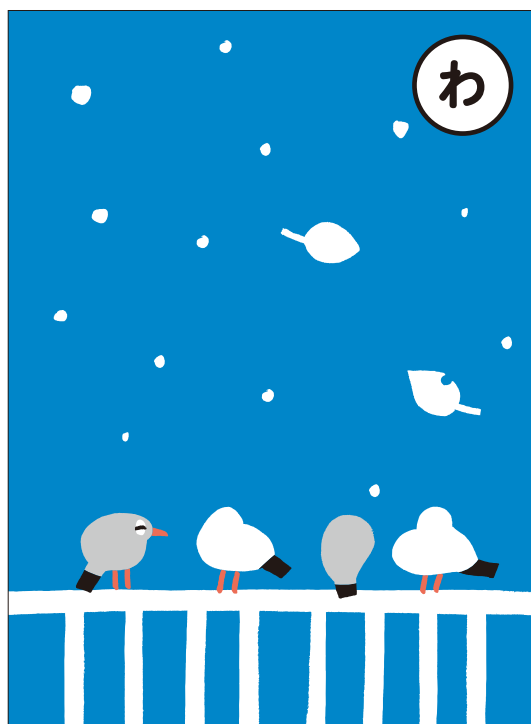
わ

渡り鳥

整列している

水辺の冬

川の水がきれいになった近年、冬になると、ホシハジロやオオバンなどたくさんの水鳥がやってきます。よく見ると、カメやヌートリアなど、普段からたくさんの生き物を見つけることができます。探してみてくださいね。



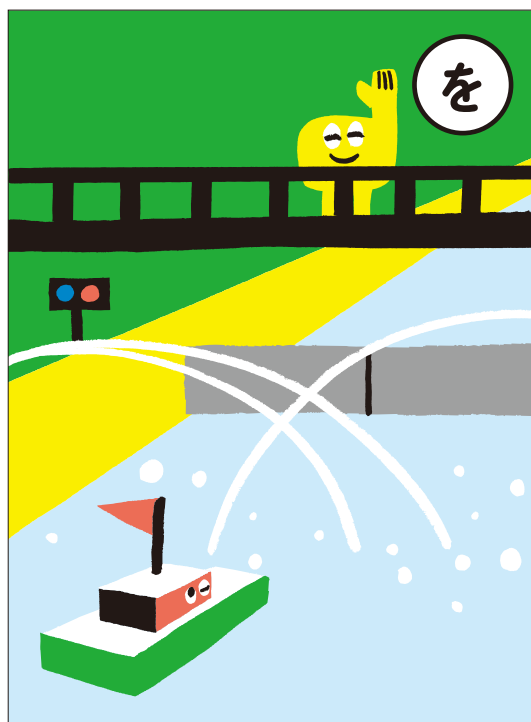
を

をくすごい！

噴水^{ふんすい}ショーで

水門^{すいもん}通過^{つうか}

2000年、道頓堀川と東横堀川には水門ができました。水門が動く時、船の危険通行を防ぐための赤信号として噴水が飛び出ます。船を歓迎するショーのようで、クルーズの人気スポットになっています。



ん

ん？もう動^{うご}いてる？

静^{しず}かに進^{すす}む

電^{でん}気^き船^{せん}

日本の船は、今のところほとんどがガソリン船。電気で動く電気船はエンジン音がほとんどなく、とっても静かで匂いもしないので、環境にも人にもまちにも優しい。将来的に電気船が増えるといいですね。

